

甲佐町議会だより

第189号



清流

令和6年(2024)6月3日発行

発行 甲佐町議会

発行責任者 議長 宮本 修治

3月定例会



3月定例会・第1回臨時会審議結果他	②~④
新年度予算	⑤
そこが知りたいQ&A	⑥
一般質問(5人)ここが聞きたい	⑦~⑪
未来へのつばさ	⑫

たのもし
未来の消防団

(若草保育園幼年消防クラブ)

令和6年第1回(3月)定例会

3月定例会は、3月8日に開会し、13日までの6日間の会期で開催した。

上程された議案は、人事案件1件、条例案件9件、工事請負契約の変更2件、令和5年度一般会計及び各特別会計補正予算、令和6年度一般会計及び各特別会計予算、その他の案件で審議の結果、すべて原案のとおり可決した。

一般質問には、5議員が道路、防災、福祉、子育て支援、産業・地域振興などについて活発な議論を展開した。

審議結果

区 分	議 案 名	審議結果
同意第1号	甲佐町教育委員会委員の任命に付き同意を求めることについて	同 意
議案第3号	甲佐町課設置条例の一部を改正する条例の制定について	可 決
議案第4号	甲佐町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	可 決
議案第5号	地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について	可 決
議案第6号	甲佐町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	可決(反対3)
議案第7号	甲佐町子ども・子育て会議条例の一部を改正する条例の制定について	可 決
議案第8号	甲佐町介護保険条例の一部を改正する条例の制定について	可決(反対2)
議案第9号	甲佐町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	可 決
議案第10号	甲佐町定住促進住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について	可 決
議案第11号	甲佐町子育て支援住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について	可 決
議案第12号	工事請負契約の変更について	可 決
議案第13号	工事請負契約の変更について	可 決
議案第14号	令和5年度甲佐町一般会計補正予算(第9号)	可 決
議案第15号	令和5年度甲佐町国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	可 決
議案第16号	令和5年度甲佐町介護保険特別会計補正予算(第3号)	可 決
議案第17号	令和5年度甲佐町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)	可 決

議案第18号	令和6年度甲佐町一般会計予算	可決(反対2)
議案第19号	令和6年度甲佐町国民健康保険特別会計予算	可決(反対2)
議案第20号	令和6年度甲佐町介護保険特別会計予算	可決(反対2)
議案第21号	令和6年度甲佐町後期高齢者医療特別会計予算	可決(反対2)
議案第22号	令和6年度甲佐町水道事業会計予算	可決
発議第1号	甲佐町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について	可決

※審議結果の「可決」は全会一致または賛成多数によるものです。

審議した主な議案等の内容は次のとおり。

人事関係

教育委員会委員の任命

宇都郁美氏(竜野地区)

現教育委員である宇都郁美氏が令和6年3月23日に任期満了となることから、引続き委員として任命することに同意。

条例関係

議案第3号 甲佐町課設置条例の一部改正

組織の事務分掌の見直しにより、企画課から、定住政策、商工業の振興及び観光イベント、その他地域振興に関する事務を新設する地域振興課の所管としたもの。

議案第4号 甲佐町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例等の一部改正

人事院勧告により、会計年度任用職員等の処遇改善を行ったもの。

議案第5号 地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例

地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴い、関係条例の改正を行ったもの。

議案第6号 甲佐町国民健康保険税条例の一部改正

国民健康保険財政運営の安定化を図るため、税率等の改正を行ったもの。

議案第7号 甲佐町子ども・子育て会議条例の一部改正

こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律等の施行に伴い、条例の改正を行ったもの。

議案第8号 甲佐町介護保険条例の一部改正

令和6年度から令和8年度における介護保険サービス等の事業に係る費用の見込みに基づき、保険料基準額等の改正を行ったもの。

議案第9号 甲佐町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営の基準等に関する条例等の一部改正

指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令の施行に伴い、関係条例の改正を行ったもの。

議案第10号 甲佐町定住促進住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正

家賃の減額及び敷金について改正を行ったもの。

議案第11号 甲佐町子育て支援住宅
管理条例の一部改正
敷金について改正を行ったもの。

契約関係

工事請負契約の変更
熊本甲佐総合運動公園サッカー場災
害復旧工事
人工芝処分費等の減等による工事
費784万5200円の減額に伴う
契約の変更を行ったもの。

乙女小学校管理棟及び教室棟外壁・
防水改修工事
外壁工事の増加等による工事費
297万4563円の増額に伴う契
約の変更を行ったもの。

予算関係

令和5年度予算補正
議案第14号 令和5年度甲佐町一般
会計補正予算(第9号)
主な補正は、事業実績見込みによ
り補正を行ったもの。

議案第15号・第16号・第17号
各特別会計補正予算
主な補正は、事業実績見込みによ
り補正を行ったもの。

※令和5年度各会計予算の補正後の
額は次ページに掲載

令和6年度当初予算
甲佐町一般会計予算

令和6年度の一般会計予算は、前
年度当初予算から16億8929万6
千円増加し95億5620万2千円と
なった。主な増加要因は、ふるさと
甲佐応援寄付金の増加見込みによる
関連予算約3億5100万円の増の
ほか、物価高騰対策関連予算約1億
7000万円の増など。

※令和6年度各会計予算の額は次ペ
ージに掲載

第1回臨時会

条例関係

甲佐町手数料条例の一部改正
戸籍法の一部を改正する法律の施
行に伴い、条例の改正を行ったもの。

予算関係

令和5年度甲佐町一般会計補正予算
(第0号)

6億681万5千円を増額し、総
額106億9577万8千円とする

もの。主な補正は、ふるさと甲佐
応援寄付金関連予算5億3777万6
千円の増額ほか、物価高騰支援関連
予算6635万5千円など。

議会運営委員会研修報告

令和6年2月14日、荒田委員長他
3名及び議長により、宮崎県新富町
において行政視察研修を実施した。
新富町は、宮崎県のほぼ中央に位置
し、人口1万6000人で自衛隊の
新田原航空基地を有する町でもある。
研修中も普段聞き慣れない、大きな
飛行機音が聞こえてきたことに少し
驚きを感じた。研修においては、本
町においても、議員のなり手不足か
ら、令和5年の議員改選では無投票
となった経緯がある。定数削減と併
せて報酬の大胆な引き上げを実施し
た新富町を視察の対象として研修を
行った。報酬については、改正前は
月額21万1000円から約34パーセ
ント引き上げられ、宮崎県内の町村
で最高の月額28万3000円となり、
定数12人に対し17人が届け出る結果
となった。本町の議員報酬は23万7
300円で定数11人。今回の研修内
容については、議会活性化調査特別
委員会にも情報共有を行うこととし、
調査、研究を重ねながら、開かれた

議会を推進していく。

東京都日の出町厚生文教 常任委員会視察研修受入れ

令和6年1月19日、日の出町議会
より濱中委員長他6名の委員により、
本町が実施している、子ども議会の
視察研修の受け入れを行った。研修
では、本町が子ども議会を始めたきっ
かけについて質問があり、平成21年
6月議会の一般質問の中で、将来を
担う子どもたちが、住みよい町をつ
くるために純粋な立場から自分の意
見、夢を話してもらおう機会をつくる
こと、また、町の仕事や議会の仕組
みなどを勉強し、積極的にまちづく
りに参加できるようにとの趣旨から、
平成21年10月に子ども議会を実施し、
熊本地震やコロナ感染症で中止もあっ
たが、これまで11回開催しているこ
と。その他、子ども議会により実際
に実現された施策や事業について、
子ども議会を始めて良かった点や行
政側の準備等の負担や課題などにつ
いても質問があり、終始活発な意見
交換となり、先進的な事案として有
意義な研修が出来たとの、意見を頂
き研修を終えた。

令和6年度 当初予算を可決 132億4,941万円

会 計 名		予 算 額	前年度比
一 般 会 計		95億5,620万円	121.5
特別会計	国民健康保険事業	14億9,368万円	99.9
	介護保険事業	16億5,959万円	103.6
	後期高齢者医療事業	2億1,472万円	115.0
水道事業（公営企業会計） （収益的支出額と資本的支出額の合計）		3億2,522万円	101.9
合 計		132億4,941万円	115.5

（金額は1万円未満を四捨五入しています）

令和5年度 補正予算（第9号）を可決 1億9,717万円減額

会 計 名		補 正 額	補正後の総額
一 般 会 計		△1億6,212万円	105億3,366万円
特別会計	国民健康保険事業	△4,248万円	14億7,036万円
	介護保険事業	1,031万円	16億8,409万円
	後期高齢者医療事業	△288万円	1億8,482万円
水道事業（公営企業会計） （収益的支出額と資本的支出額の合計）		—	3億1,931万円
合 計		△1億9,717万円	141億9,224万円

（金額は1万円未満を四捨五入しています）

ここが知りたいQ&A

3月定例会
質疑から

スタートアップ起業等応援プロジェクト事業とデジタルスタンプラリーについて

Q 両事業の内容は。

A 中心市街地の活性化を目的に、町が中心市街地の一角の用地を購入し、中心市街地の拠点となる施設を整備したいと考えている。

令和6年度で工事等は完成させ、入居者募集まで行いたい。用地交渉については、令和6年4月より交渉を行う予定としている。

また、「デジタルスタンプラリー」(*)については、美里町と連携を図り、交付金を活用しながら、甲佐町と美里町を買い物をしながら観光地を周遊していきけるような取り組みを構築していきたい。

(*)「デジタルスタンプラリー」とは・・・スマホ等を使用して、スタンプラリーを行うこと。

防災行政無線システムの更新について

Q 令和6年度新規事業にある防災行政無線設備機能強化事業の内容は。

A 本事業については、運用開始から約17年が経過している町の防災行政無

線の全体の更新を行うものである。理由として、現在個別受信機等の故障も頻発しており更新の時期も来ている。さらに、既存の使用電波の形式が新しく変わる。

整備計画としては、今年度3億円の予算を見込んでいるが、個別受信機まで含めて5億円程の総予算を見込んでいる。現在2カ年で整備することで考えているが、今後事業構築を行っていく上で状況に応じて事業期間を変更する必要もあると考える。



防災行政無線基地局アンテナ

Q 防災行政無線役場基地局の waters 対策は。

A 役場が水害にあったら基地局も被害が出る。その場合は、災害対策本部も移転する必要がある。現在の防災システムでも中継局から緊急放送できるようにしている。基地局が水没しても、中継局においていろいろな情報の周知を図ることができる。



防災行政無線基地局放送室

河川監視カメラ設置事業について

Q 監視カメラ設置個所と運用体制は。

A 下横田地区の緑川団地付近及び湯田川の国道443号との交差する2地点。

運用体制については、ある程度河川の水位が上昇したら通知があるような浸水センサーも同時に設置する。

今後、初動体制も含め、くらし安全推進室や消防団と情報を共有し、協議を重ねていく。

一般質問

熱中症対策 体育館の持つ多目的機能を活かすため冷房設備の考えは

教育長 国、県の動向や緊急性、財政面とも照らし検討



鳴瀬 美善 議員

問 総合運動公園利用者や観戦者に対する熱中症対策は。



総合運動公園

後藤社会教育課長
ワンタッチテントや簡易テントの貸出して対応。

問 体育館への冷房設備の考えは。

田上教育長
整備には莫大な費用が発生

する。国や県の補助事業を活用し、今後の動向とも合わせ緊急性、財政面とも照らし調査、検討する。

問 緑川グラウンド利用者への熱中症対策は。

後藤社会教育課長
組み立てテントの常設など措置を講じる。



緑川グラウンド

問 学校施設での授業や部活動時の熱中症対策は。

吉岡学校教育課長
水分補給を十分に行い、服装にも気をつけ、熱中症ガイドラインに沿った適切な対応を指導。

サンショウウによる町の活性化と鳥獣被害対策

問 新規にサンショウ栽培に取り組む農家は。

井上農政課長
希望農家は、町全体で16戸、約1.2ヘクタール。宮内3戸、甲佐2戸、竜野3戸、乙女5戸、白旗3戸。

問 サンショウ栽培、宮内地区の耕作者を始め新規作付者への被害対策は。

井上農政課長
県の補助を活用し、町と地域が協力して、鳥獣被害防止対策をモデル地区中心に対策を強化。

問 全頭調査の必要性は。

井上農政課長
全頭調査の考えはないが、地域での潜み場をなくす取り組みや追い払い活動、計画的な防護柵の設置など、複合的に組み合わせた活動を進め被害軽減を図る。

県道三本松甲佐線の改良進捗と観光振興策

問 採石場から上揚集落までの改良進捗は。

志戸岡建設課長

現在まで、測量設計が完了し、令和6年度から県が用地買収に入ることから、町も協力して行く。



早期の改修が望まれる(上揚地内)

問 井戸江橋から旧宮内小学校までのバイパス化の進捗は。

志戸岡建設課長
令和5年度で、概略設計調査やルート選定など基礎的な調査が完了。令和6年度は、橋梁に関する調査を実施。

その他に「観光振興策」について質問を行った。



こちらから全質問を視聴いただけます。

県道三本松甲佐線、危険箇所への安全対策は

建設課長 県に早期補修工事完了の要望を



佐野 安春 議員

問 宮内地区の方々の生活の上でなくてはならない県道三本松甲佐線であるが、いつ落石や崩落が起こるかもしれない道路を歩き来する住民にとって現道の道路改善は一日も早いことを願っている。

バイパス道路の道路整備が完成するには数年かかるということだが、その間にも危険箇所のある道路を通行しなければならぬ。落石や崩落などの事故があつてはならない。井戸江から小鹿・打出への急傾斜地の安全対策は進んでいるのか。新設の道路整備と共に今までの県道の整備、危険箇所の安全対策は。

志戸岡建設課長

三本松甲佐線については、モルタル吹付のクラック等が発見されている。昨年県が調査をし、クラックの広がりにつ

いて場所や危険性について把握をされている。

クラックの現状観測を行いながら注視をしている。令和6年度に補修の詳細設計を行うと聞いている。

町も安全性について注視しながら、県事業についても早期に補修工事が完了するよう要望していきたい。



県道三本松甲佐線急傾斜地

大災害への備えは充分か

問 元旦に発生した能登半島地震には誰も驚いた。本当に災害は時と場所を選ばない。3月11日は東日本地震が起こった日、13年経っているが今も全国で約2万9千人の被災者が避難生活を送られている。熊本地震からも8

年を迎えようとしている。町の災害への備えは大丈夫か。非常時備品等の備えは充分か。

北野総務課長

町が用意している物品が65項目、飲食類が7項目。備蓄品以外は、JA上益城、生協熊本とスーパーなどの量販店、町内16の飲食店と災害応援協定を結んで、緊急時の対応を図っていると考えている。

問 御船町では備蓄品整備計画が作られ、飲料水、食糧、毛布、紙おむつなど日用品を人口の1割備蓄する計画になっている。益城町でも備蓄計画を作成して食料、飲料水、生活必需品、衣料品などを備蓄する計画を決めている。町も食料品や生活必需品などの備蓄整備計画を立てられ用意していく必要があると思うが。

北野総務課長

町は可能な限りの備蓄品の更新は行なっているが、災害対応に充分ということはないと感じている。町民の方に最低3日分、水や食料を備蓄し災害に備えるよう努力いただき共助面で、避難訓練など円滑に行えるようにしている。



こちらから全質問を視聴いただけます。

その他の質問に、「井戸江からの道路・橋を架ける構想の進捗状況は・内水対策の進捗状況は・防災士の役割はどう果たされているのか・南海トラフ地震・日奈久断層帯地震に対する対応策・介護予防拠点である公民館再生を」の質問を行った。

一般質問

資格取得支援について

町長 今後検討課題として扱う



田中 孝義 議員

問 資格取得支援をされている八代市の取り組みは。

荒田企画課長

事業の目的は、離職や未就業により求職中の方を対象に就業するときに有利となる資格、技術向上に役立つ資格を取得することで雇用機会の拡大や地元への就労定着へつながることとなっている。申請状況は、令和5年度2月末8件で資格の内容も以前は、大型免許の取得が多かったが、最近は、医療や介護事業等の資格取得の申請が多くなっている。

問 就労率を上げることと、資格を取得することで町民の年収が上がり生活に少しでもゆとりが出来ればと思っている。現在町では、防災士、狩猟免許に対する支援を行って

いる。甲佐町高齢者福祉計画の中でも介護人材に向けた取り組みの推進があったが介護士などの資格を取得される方もいると思う。町の考えは。

荒田企画課長

国では公共職業安定所、通称ハローワーク、で資格取得支援が行われているので町としては、検討課題とされている。

問 今町民は、価格高騰などにより苦しい生活をされている方も多いと思う。大企業などでは、給料アップなどされていますが町民の皆様から景気がいいという声は、聞こえません。少しでも町民のゆとりある生活を、との考えがあるならもう一度考えていただきたいと思うが。

甲斐町長

議員の考え方も理解するところですが、現在町では、子育て支援プロジェクトを立ち上げ総合的な子育て支援策を大々的に見直していこうとプロジェクトチームを立ち上げ現在検討している。そのプロジェクトの一つとしてこれから検討課題として取り扱う。

内水氾濫について

問 令和6年度の河川浚渫は。

志戸岡建設課長

令和6年度の浚渫予定箇所は、安平地区の安平川、豊内地区の湯田川・南谷川、中横田地区の立神川、下横田地区の内田川、上早川地区の竜野川・宮ノ尾川・目野川、糸田地区の中州川の9河川を予定している。土砂の堆積量とか優先順位をつけながら実施する。浚渫にかかる予算は、緊急浚渫事業債を活用し5,000万円を見込んでいます。

問 大井手川において鮎緑橋のかさ上げをしていただき安心していたが、昨年7月2日に甲南橋と湯田川による内水氾濫が起こっている。大町の方で今排水ポンプをつける工事が行われているが、南谷川、竜野川、馬門川などの計画は。

志戸岡建設課長

南谷川については、浚渫等もやっていきたい。大井手川の湯田川と合流地点の下流に河床の掘り下げを行うことで流下能力が上がり水位が50センチほど低下する見込みで上

流部での効果も期待できる。馬門川においては国交省で将来堤防を設置されるので樋門を造ることになり河川を締め切ることになるのでそちらにポンプ設置等を要望している。また、内水をくみ上げるポンプは、町で用意できている。



大町地区排水機場建設現場



こちらから全質問を視聴いただけます。

就学援助金の周知・口座振り込みなどへ見直しを

学校教育課長 現段階では周知は行き届いていると考える



井芹しま子 議員

問 就学援助制度は、生活保護に規定する要保護とそれに準じる程度に困窮する要保護世帯を対象とし、要保護については、所得基準、収入基準、支給費目など自治体によって違い、自治体間の差が出てきている。この基準について、自治体によっては所得や収入の目安、受けられる援助費目や金額など、非常に丁寧に案内しているところもある。

物価高騰の中、とりわけ子育て世帯の暮らしは厳しさを増している。この制度を受けられる世帯にあつては、利用が広がるよう、学校でのチラシやホームページにおいても所得や収入の目安など示した丁寧な案内に改善しては。

吉岡学校教育課長

所得基準や収入基準は世帯

の数、世帯構成等要件が変わり、一概に認定できるものではないので、詳しいことは個別に学校教育課に尋ねてほしいと伝えている。

目安の例示等は考えてみたいと思うが、今の段階では、行き届いていると考えている。

問 援助金の支給方法は現在、手渡しになってきている。個人情報報の点からも、口座振り込みにするべきでは。

吉岡学校教育課長

給食費や校納金等の未納の場合、就学援助金から差し引いており、その為手渡しとなっている。給食費については、令和6年度より、児童手当から徴収を予定しており、就学援助金については状況を見て、振り込みを検討していく必要もあると考えている。

不登校児童生徒の学びの保障は

問 文科省は誰一人取り残さない学びの補償に向けた不登校対応プラン「COOLOプラン」をまとめている。このプランを踏まえた町の対応は。

吉岡学校教育課長

こどもの人格と能力の発達に必要な学習をする為に、不登校などで学ぶことがうまくいかない子どもたちの為に、学校以外の適応教室ろくじ館、町民センター、乙女ふれあいセンターなどで学習を行っている。通常復帰を見据え、在籍校とも連携して支援を行っている。

少子化対策について

問 厚労省は2023年の人口動態統計の速報値を公表。年間の出生数が75万8631人と8年連続で過去最少を更新している。甲佐町にあつても出生数は激減している。岸田首相は不転の決意、県は子ども政策を県政の基軸にと報道されている。町の対策は。

宮崎福祉課長

現在、町は少子化対策として高校生までの医療費助成、第3子以降の出生に一人10万円祝い金、子育て世帯の定住促進として土地購入や新築の助成など行っているが、少子化を大きく好転させるには新たな施策が必要と考えている。

問 何よりも子育て世帯や若者のニーズや声をしっかりと聞く必要があるのではないかと。

甲斐町長

少子高齢化、人口減少の対応は最重要課題と捉えている。少子化対策は単発の事業ではなく、総合的な政策で展開していく必要があると考える。若い世帯に魅力ある町づくり、選ばれる町づくり、子どもを産み育てやすい環境づくりが必要だと考えている。

そのほか、高校生への通学費の助成について質問。



こちらから全質問を視聴いただけます。

一般質問

市街地を含む内水対策について

町長 今後も必要な対策を継続的に取り組む

大町地区排水機整備事業について

問 現在までの進捗状況と完成時期は。

志戸岡建設課長

ポンプ施設の敷地整備、水槽や堤防乗り越し部の土木工事、排水管の設置工事等全体の完成が令和6年6月末になる予定。

今年の梅雨時期については、仮設のホースを設置して排水が出来る様考えている。

問 排水機は何台設置され、どのような場合において作動するのか。

志戸岡建設課長

排水ポンプ3台を設置し毎秒0.4m³を排水する事が出来る。



議員 甲斐 良二

る。排水ポンプは、自動運転できる仕様となっており水槽に水が入り込み始動水位に達したならば自動でポンプが作動を始め、水位の低下に合わせて自動で停止する事になると思う。

問 排水機設置後の堤防の強度は確保できるのか。



大町地区排水機場

志戸岡建設課長

排水管は、常設して現堤防を乗り越して設置する。通行車両が排水管に衝撃を与えないよう道路横断側構内に配管する二重構造となっている。

堤防法面部の保護については、放流による洗堀防止を目的として、放流口の幅に両側5mを加えた幅を護岸ブロックにて保護する。放流先の高水敷にも、洗堀の恐れがある

ことから根固めブロックで保護をすることで堤防の強度は確保できる。

問 排水機作動後に大井手川の水位の低下がなされ、市街地の内水対策に効果があると考えるか。

志戸岡建設課長

大井手川から分水する排水路が大町排水機場に集まりポンプを稼働することで、接続する水路の水位を下げる効果がある。

また、大町下流部にある農業用排水ゲートの操作により、ポンプ能力の範囲内で大井手川の流水を大町排水機場で排水することが可能となり大井手川の水位低下が見込めるため市街地への内水対策としての効果があると考えます。

問 排水機設置は、市街地の内水対策に一定の区切りと考えられるか。

甲斐町長

市街地の内水対策は、平成29年に検討した対策を短期的・中長期的な計画により整備を進めている。令和6年度には、甲佐高校付近の大井手川の川底を下げる工事と固定堰の撤

去を行う。

本町では、国交省、県と内水対策会議を設立し、内水対策について取り組んでいる。会議では、本町の地形条件で水害リスクを考え勉強会を実施するなど「防災とまちづくり」に対して支援・協力をいただいている。

今後は、ハード整備の加速化に加え、頻発化、激甚化する大規模災害への対応として、町の防災機能や避難所などをどうするかを考えておく必要がある。被害をできるだけ軽減し必要な対策を実施し継続的に取り組んでいきたいと考える。

その他、観光入込客数増加に向けてのインバウンド（訪日外国人観光客）の取り込みについて聞いた。



こちらから全質問を視聴いただけます。

未来へのつばさ

18歳選挙権について

甲佐高等学校3年 中川 優衣

私は現在、甲佐高校で生徒会長を務めています。そこで今回、選挙権が18歳に引き下げられたことについて考えると、私自身の生徒会選挙のことを思い出しました。高校1年生の頃、生徒会選挙が何か分からないまま投票に参加しました。その時には、何を基準に投票するべきか分かりませんでした。候補者の演説の言葉が心に残り投票した事を覚えています。

私が生徒会長に選ばれた去年の生徒会選挙でも、例年通りに甲佐町から本物の投票箱をお借りして選挙が行われました。そこで生徒からの投票を受けて生徒会長になりました。私は甲佐高校を魅力のある学校にしたいという想いがあることを演説で話しました。この選挙を通して、多くの人に意見を伝える大切さを学びました。選挙の前後は、自分が学校の中心としてやっていけるか、魅力のある学校にできるのかという不安がありました。この1年間で甲佐高校や甲佐町が良くなるようにみんなでボランティア活動に参加したり産業文化祭を盛り上げることに尽力することが出来ました。

これらの経験を活かして、私が今年18歳になって選挙に投票する時には立候補者全員の演説をしっかりと聞いて、私が納得できる人が誰なのかを考えて投票しようと思いました。

熊本県町村議会議長会主催の議員研修に参加

1月23日、本町議会棟研修室において、オンラインによる議員研修が実施された。

この研修は、講師に地方議員研修講師の川本達志氏を迎え「地方議員のための役所を動かす質問の仕方」と題しオンライン形式による講義が行われた。

まず、一般質問については主に政策提案型、課題・責任追及型、自己主張型の主に3タイプに分かれる説明があった。

- 次に一般質問における「成果」については、
- ① 現状に関する住民への明確な情報提供
 - ② 隠れていた重要な課題を見える化
 - ③ 課題解決のための政策を提案し実現
- についての説明があった。また、政策提案型質問作成的ためには、現場調査・データ整理や制度の精査と仮説の選択といった準備を行わなければならない事がわかった。



研修に参加して、より良い一般質問は、住民との多様なコミュニケーションチャンネル（会報、集会、懇話会等）を活かし現状と課題を明確に理解して効率的な準備をして挑まなければならないと感じた研修であった。

町民の皆様のご傍聴をお待ちしています。お気軽にお越しください。

※令和6年第2回（6月）定例会は、6月7日開会の予定です。

編集後記

今年、能登半島地震が元旦に発生し、震度5以上の地震は4月17日の豊後水道地震、日本近隣では4月3日に台湾東部沖でM7.2の大地震が発生しています。国内だけでも震度5以上の地震は毎年、何度も繰り返し発生しています。

ところで、台湾での地震発生後の避難所開設などの対応の早さと個室テントが話題になりました。台湾は、日本の東日本大震災や熊本地震の避難所のあり方を調べて取り入れているとの事。

迅速の力は「官民連携」にあるそうで、台湾から学ぶところがあると思います。

(佐野安春)

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 甲斐 良二 |
| 副委員長 | 佐野 安春 |
| 委員 | 森田 精子 |
| 委員 | 鳴瀬 美善 |
| 委員 | 田中 孝義 |

